

平成6年度病害虫発生予察特殊報第2号(ダイジェスト版)

病害虫発生予察特殊報は、新たな病害虫の発生が認められたり、発生のかたが例年と異なるなど、特異的な現象が認められたときに発令する情報です。

10月、高知県土佐市の施設栽培ピーマン、シシトウガラシの茎葉や果実に斑点ができる障害が発生し、県農業技術センターで調査を行ったところ、*Corynespora cassiicola*(コリネスポーラ・カシコーラ)というカビの一種による新しい病害であることが明らかになりました。その後の調査によると、香美郡土佐山田町の施設栽培や土佐町、本山町を始めとする嶺北地域、高岡郡大野見村などの雨よけ栽培でも発生が見られています。

病徴は、葉では初め褐色小斑点が形成され、次第に拡大し不定形で黒褐色輪紋状の病斑(写真2)となることが多く、従来から発生がある斑点病(写真1)に似ています。茎では黒褐色の斑点が形成され、また果実、果梗にも黒褐色の斑点(写真3)を生じることがあります。

ナスの黒枯病などと同様に、被害茎葉上に形成される分生子(孢子)により伝染し、高温、多湿条件で多発生するものと思われますが、詳細については調査中です。

防除対策としてはほ場内が多湿条件にならないよう、排水を良好にするとともに敷きわら、マルチなどを行い、被害茎葉、果実は伝染源となるのでほ場外に持ち出し処分します。なお、薬剤による防除については、各地域の農業振興センター、JAまたは病害虫防除所にお問い合わせください。



写真1斑点病(病斑はほとんど丸い)



写真2黒枯病(病斑は不定形)



写真3黒枯病(果梗の黒褐色斑点)